

平成25年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成24年8月9日

上場会社名 築地魚市場 株式会社  
 コード番号 8039 URL <http://www.tsukiji-uoichiba.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 廣石 清治  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 大竹 利夫

TEL 03-3541-6312

四半期報告書提出予定日 平成24年8月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	19,772	8.8	1,135		1,184		2,725	
24年3月期第1四半期	21,683	1.4	22		88		87	

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 1,902百万円 ( %) 24年3月期第1四半期 186百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	121.41	
24年3月期第1四半期	3.91	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第1四半期	18,308	4,555	24.9	202.95
24年3月期	19,623	6,525	33.3	290.71

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 4,555百万円 24年3月期 6,525百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期				3.00	3.00
25年3月期					
25年3月期(予想)				3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	38,000	7.9	1,230		1,300		2,800		124.74
通期	78,000	7.3	1,000		1,100		2,600		115.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(平成24年8月9日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.2「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 有

修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料2ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期1Q	22,475,208 株	24年3月期	22,475,208 株
----------	--------------	--------	--------------

期末自己株式数

25年3月期1Q	28,475 株	24年3月期	28,475 株
----------	----------	--------	----------

期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期1Q	22,446,733 株	24年3月期1Q	22,447,337 株
----------	--------------	----------	--------------

### 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 添付資料の目次

1 . 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
( 1 ) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
( 2 ) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
( 3 ) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2 . サマリー情報(その他)に関する事項 .....	3
( 1 ) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
( 2 ) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
( 3 ) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3 . 四半期連結財務諸表 .....	4
( 1 ) 四半期連結貸借対照表 .....	4
( 2 ) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
( 3 ) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
( 4 ) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
( 5 ) セグメント情報等 .....	8
( 6 ) 重要な後発事象 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、株式市場は依然低迷し、欧州の経済不安等が更に深刻となり円高傾向は収まらず、また原子力発電所事故等の社会問題の收拾がつかず、政治不安も加わって、先行きの不透明感が拭えない状況にあります。

水産物卸売業界においても厳しい状況は変わらず、卸売市場経由率が依然として低下しており取扱数量は減少傾向にあります。一方消費者は食に対する安全、安心を求め、なおかつ低価格志向がますます強まる気配を見せ、厳しい状況が続いております。

このような状況下で当社グループは、積極的な営業活動の展開と内部体制の再整備に取り組んでまいりました。

当第1四半期連結累計期間の売上高は197億72百万円（前年同期は216億83百万円）となり、鮭鱒を中心とした冷凍水産物の相場下落による販売損失及び期末在庫品の評価損を計上したことにより、営業損失は11億35百万円（前年同期は22百万円の営業利益）となりました。経常損益は、有価証券運用損61百万円（前年同期 有価証券運用益37百万円）により経常損失は11億84百万円（前年同期は88百万円の経常利益）、四半期純損失は有価証券の評価損14億70百万円及び減損損失65百万円を特別損失に計上したことにより、27億25百万円（前年同期は87百万円の四半期純利益）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

水産物卸売業においては、取扱数量の減少、単価も下落したことにより、売上高は195億81百万円（前年同期は214億89百万円）となり、営業費用を削減し収益の改善に努めましたが、在庫の評価損もありセグメント損失は11億79百万円（前年同期は25百万円のセグメント損失）となりました。冷蔵倉庫業においては、取扱量はほぼ横ばいとなり、売上高は1億15百万円（前年同期は1億15百万円）、セグメント利益は3百万円（前年同期は2百万円のセグメント利益）となりました。不動産賃貸業は、売上高は75百万円（前年同期は78百万円）、セグメント利益は40百万円（前年同期は46百万円のセグメント利益）となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産は183億8百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億15百万円減少いたしました。流動資産は111億34百万円となり、4億5百万円減少いたしました。主な要因は、商品及び製品の仕入による現金及び預金の減少によるものです。固定資産は71億73百万円となり、9億9百万円減少いたしました。主な要因は、投資有価証券の時価の下落によるものです。

当第1四半期連結会計期間末の負債は137億52百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億54百万円増加いたしました。流動負債は118億19百万円となり、6億86百万円増加いたしました。主な要因は、短期借入金の増加によるものです。固定負債は19億32百万円となり、ほぼ横ばいでした。

当第1四半期連結会計期間末の純資産は45億55百万円となり、19億69百万円減少いたしました。主な要因は、四半期純損失による利益剰余金の減少によるものです。

当第1四半期連結累計期間において、当社グループは相場下落による販売損失及びたな卸資産の評価損と有価証券の減損処理等により、四半期純損失は27億25百万円となり、自己資本比率も33.25%から24.88%に悪化しております。

このような状況下で当連結会計年度（平成25年3月期）は第3次中期3ヶ年経営指針の2年目にあたりますが、早期にこれを推進、構造改革を行ったうえで次期3ヶ年計画の積極策につなげるため、今回新たに「東市Action-Plan」を策定しました。その概要としましては、次のとおりです。

保有する有価証券のうち、流動性のあるものは原則売却方針とし、有価証券依存体質から脱却、有価証券保有リスクを極小化、併せてネット有利子負債を削減のうえバランスシートを健全化し、資金運用チームは解散。

平成25年3月期第2四半期末までに、たな卸資産の含み損一掃と不採算事業の整理等により、収益構造を改革、平成25年3月期第3四半期以降は営業黒字を安定的に確保。

在庫圧縮により相場変動リスクと資金負担の軽減化を図ると同時に、キャッシュフローを常に意識したオペレーションを全社員に徹底させ、平成25年3月期第3四半期以降は営業キャッシュフローの継続的な黒字を確保。

本プランの実効性を担保するため、社長を委員長とする「A-Plan」実行委員会（傘下に経費削減委員会、業務改善委員会）を編成のうえ、全社横断的なタスクフォースにより推進。

この「東市Action-Plan」を確実に実行していくことにより、大手荷受会社としての社会的使命を果たしていくと同時に、恒常的な利益を生み出し、自己資本の充実に努めて参ります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の連結業績予想につきましては、第1四半期連結累計期間における実績が予想を下回ったことを勘案し、平成24年5月10日に公表いたしました内容から、第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想をそれぞれ下方修正いたしました。詳細につきましては、本日(平成24年8月9日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より平成24年4月1日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

この変更が損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,032	850
受取手形及び売掛金	4,529	4,486
前渡金	55	282
商品及び製品	4,691	4,958
原材料及び貯蔵品	24	63
その他	389	671
貸倒引当金	181	177
流動資産合計	11,540	11,134
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,039	1,980
その他(純額)	1,126	1,091
有形固定資産合計	3,166	3,072
無形固定資産	88	86
投資その他の資産		
投資有価証券	4,727	3,914
その他	303	303
貸倒引当金	202	203
投資その他の資産合計	4,828	4,014
固定資産合計	8,082	7,173
資産合計	19,623	18,308
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,667	2,613
短期借入金	7,821	8,532
未払法人税等	11	8
賞与引当金	42	73
その他	589	591
流動負債合計	11,132	11,819
固定負債		
長期借入金	606	570
長期未払金	54	33
繰延税金負債	75	118
退職給付引当金	578	567
その他	650	642
固定負債合計	1,965	1,932
負債合計	13,098	13,752

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,037	2,037
資本剰余金	1,309	1,309
利益剰余金	3,922	1,130
自己株式	5	5
株主資本合計	7,264	4,471
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	753	65
繰延ヘッジ損益	3	-
土地再評価差額金	18	18
その他の包括利益累計額合計	738	84
純資産合計	6,525	4,555
負債純資産合計	19,623	18,308

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	21,683	19,772
売上原価	20,619	19,869
売上総利益又は売上総損失( )	1,063	97
販売費及び一般管理費	1,040	1,038
営業利益又は営業損失( )	22	1,135
営業外収益		
受取利息	4	2
受取配当金	49	39
有価証券運用益	37	-
その他	7	8
営業外収益合計	98	51
営業外費用		
支払利息	27	29
有価証券運用損	-	61
その他	5	8
営業外費用合計	32	99
経常利益又は経常損失( )	88	1,184
特別損失		
投資有価証券評価損	-	1,470
減損損失	-	65
特別損失合計	-	1,535
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	88	2,719
法人税等	0	5
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失( )	87	2,725
四半期純利益又は四半期純損失( )	87	2,725



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	87	2,725
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	98	819
繰延ヘッジ損益	0	3
その他の包括利益合計	98	822
四半期包括利益	186	1,902
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	186	1,902
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第1四半期連結累計期間において、27億25百万円の四半期純損失を計上したため、当第1四半期連結会計期間末において株主資本が44億71百万円となりました。

(5) セグメント情報等

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	水産物卸売業	冷蔵倉庫業	不動産賃貸業	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	21,489	115	78	21,683	-	21,683
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	6	0	6	(6)	-
計	21,489	121	78	21,690	(6)	21,683
セグメント利益又は損失( )	25	2	46	22	-	22

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額は、セグメント間取引消去額であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	水産物卸売業	冷蔵倉庫業	不動産賃貸業	合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	19,581	115	75	19,772	-	19,772
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	7	0	7	(7)	-
計	19,581	122	75	19,780	(7)	19,772
セグメント利益又は損失( )	1,179	3	40	1,135	-	1,135

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額は、セグメント間取引消去額であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「水産物卸売業」において、製造設備等の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては65百万円であります。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。